



12
881
39



梅本
春のあけぼの...
梅の花...
春のあけぼの...
梅の花...
春のあけぼの...
梅の花...
春のあけぼの...
梅の花...
春のあけぼの...
梅の花...

梅本

梅本

柏木巻

春の若れ事

は春の河并

春とて名をひき



柏木よ葉の秋なるも
源氏四十八巻に月と花の
ゆる延きし終り



春の若れ事
は春の河并
春とて名をひき
柏木よ葉の秋なるも
源氏四十八巻に月と花の
ゆる延きし終り

源氏四十八巻の年也

柏木の心は我命の心
の心は事ハ

柏

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It features several lines of dense cursive writing.

るり終りくつあや〜とてりんも也

我そのなごんさ〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

河海云

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也
と〜とてりんも也

むらひあがり け物給めたる美むらひとてきつと源氏乃又
この名を悪く密通ありて冷泉院を中つるきつと
むらひよと又物々女と云ふ密通一語ありてのりて
まうも終也

いれさあてかてむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
たうはせうとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
うせぬ選はむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと

人々もあがりぬ事あれと 柏木密通ありてのりてのりて
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
源氏ほしむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと

きつとあがりぬ事あれと 柏木密通ありてのりてのりて
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
源氏ほしむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと

あがりぬ事あれと 柏木密通ありてのりてのりて
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
むらひのきつとむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと
源氏ほしむらひのきつとむらひのきつとむらひのきつと

源のきつと 六条院乃志も人也

らやうれりつゝきほ 成のちやれきくつゝとよひはへ

るんたるん

あふれくまうそつりくせきを行つ

そとの

うくせしやうそつりくせき

まはうさたまうそつりくせき

中宮よりたまうそつりくせき

まうそつりくせき

院乃庭上人これまうそつりくせき 院とて冷泉院よりみまう

てはり也

七転らうらうそつりくせきとわねまうそつりくせき

細屋一本ひやほ梅又まうそつりくせき

らうらうそつりくせきとわねまうそつりくせき

あつとわねまうそつりくせき

梅もれおまうそつりくせき

らうらうらうらう

またらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

まうそつりくせきとわねまうそつりくせき

しうひはまうそつりくせき

かられは心のうちまうそつりくせき

てらやまうそつりくせき

源氏乃妙あま梅もれまうそつりくせき

まうそつりくせきとわねまうそつりくせき

あつとわねまうそつりくせき

まうそつりくせきとわねまうそつりくせき

あつとわねまうそつりくせき

まうそつりくせきとわねまうそつりくせき

そのむら梅もれまうそつりくせき

おのころの御神代は

我が子もあつて

まはりにくもあつたも

けりもあつたも

さかすか

おのころの御神代は

てなもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

あつたもあつたも

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is consistent with the one on the left page, suggesting a single author or scribe.

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

たれか... 走り...

走り... 源氏とある...

とけ... 走り... 源氏...

それ... 走り...

源氏... 走り...

は... 走り...

よ... 走り... 源氏...

は... 走り...

か... 走り...

お... 走り...

事... 走り... 源氏...

又... 走り...

走り...

そ... 走り... 源氏...

走り...

あ... 走り... 源氏...

ね... 走り... 源氏...

し... 走り... 源氏...

は... 走り... 源氏...

く... 走り... 源氏...

お... 走り... 源氏...

は... 走り...

は... 走り...

し... 走り... 源氏...

あ... 走り...

びつたゆいなるまもりたうこまうりとも 兼蓮院乃

今日此序ありて此序幸のりなきとも也

又序病をせしむるにうらうらうとほつとほつとありては

とぞて行 源氏の兼蓮院へうこまうちりて是れとぞん

とありてぬとやま故に女に宮にたがひ尼はぬ路をうら

しとせむの乱也とぞんりてとせむとぞんりて

とありてありて中へ入りては源氏のむなるて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

とぞんりてありてとぞんりてとぞんりて

ちをいふもさうくく人日くくはくちわくくをまめりあけ
 ほうばきうくうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 おとくあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 或^或元^元結^結はのおくくくく^信はの^の信^信の^のに^に准^准して^{して}と^とえ
 備^備る^る彼^彼ち^ち是^是の^の傳^傳ハ^ハ教^教敬^敬の^のお^おと^とく^くに^にさ^さま^まく^く先^先給^給
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の事^事は^はお^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^をは^は昇^昇
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年

おとくあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 或^或元^元結^結はのおくくくく^信はの^の信^信の^のに^に准^准して^{して}と^とえ
 備^備る^る彼^彼ち^ち是^是の^の傳^傳ハ^ハ教^教敬^敬の^のお^おと^とく^くに^にさ^さま^まく^く先^先給^給
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の事^事は^はお^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^をは^は昇^昇
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年
 とい^いひ^ひま^まき^きの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年お^おと^とく^くの^の廣^廣義^義を^を二^二八^八年^年

御もあひまゝにさうちたつたる御もまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

おしりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや

ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや

ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや
ちりやちりやちりやちりやちりやちりやちりや

并花云

とやう色よニリり 御梅よわにんり 又厚おふりんり

くらしく出梅さるるあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

源氏の色

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

并花云

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

あまされんやあまされんやあまされんやあまされんや

白

三

むらさきの海に花を散らす

ありあけの海に花を散らす

半花云

海に花を散らす

もつたふりしるは花を散らす

くまの海に花を散らす

花を散らす

海に花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花を散らす

花

花

花

あんならうちいふもさうあまうちうねるもさう

けふゆるくと福来よあつちとさういふのたあおめさう
不忠義たうのさあ海のものありあれたえのたうあつち
くんのうとを双紙の批判の物也けつちもと来えんか
う父へ似る事たうれとつひいふとさうあつちうさう也
う海 昇花 同え

この事たうさうの女房のあつちとあつちとさうあつち
福さうれとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
源氏のら也福来と女三つとの舞とさうとさうとさう
あつちとさうとさう源氏ハはさうとさうとさうとさうと
じつとさうとさうとさう

我師とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
は源氏のさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

とのもやあへるんを我名のさうとさうとさうとさうと
あつちとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
は源氏のさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

文のさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
まじいさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
女院朧月夜侍のさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう
とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

おやちらのさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう

へん 結成しん 結成しん 結成しん 結成しん
ちか ちか 母方の 柏木よせ ちかて ちかて ちかて ちかて
結成しん 結成しん 結成しん 結成しん 結成しん 結成しん
そせき

さくらさくらい あらり あらり あらり し かしと 柏木代官位

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ 柏木代官位

まゝ 下 密海 故 ちとせ ちとせ ちとせ

めいめい ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

柏木代 曲事 ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ 柏木代 女

合とせ

人 ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ
女 ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ

ゆくと尼宮ハ、
いかにくまのこぼれを
とせおとすも、
よもつとりの原成りか也

つらうさくは、
あんな 群花云 女と交うも、
ちねろ者ハ、

ハ具、
あつちちと、

夕芳れ也、

夕芳れ也、

夕芳れ也、

ゆくと尼宮ハ、
いかにくまのこぼれを
とせおとすも、
よもつとりの原成りか也
つらうさくは、
あんな 群花云 女と交うも、
ちねろ者ハ、
ハ具、
あつちちと、
夕芳れ也、
夕芳れ也、
夕芳れ也、
ゆくと尼宮ハ、
いかにくまのこぼれを
とせおとすも、
よもつとりの原成りか也

~~~~~

尾丸事ハ終ル〜終ル〜ハク書也

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

栞本此ハ事ヨリトト母ハ母ト云ノ事ナリ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

うもたなり

人のきこゆることわらうりかたへんりくせきせき
女に宮は清なることわらうりかたへんりくせき
とわくまをれせき

らるるに若れ果とらひあつらうりくせき
あつらうりくせきとらひあつらうりくせき
あつらうりくせき

女君あつらうりくせきとらひあつらうりくせき
夕暮れあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
よるるに若れ果とらひあつらうりくせき

院あつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき

かたへんりくせきとらひあつらうりくせき
なつらうりくせきとらひあつらうりくせき
のくにたつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき

とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
^{海云}とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき

とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき

とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき
とらひあつらうりくせきとらひあつらうりくせき

あはれなきはなははの御前にて
はなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて

あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて

あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて

桐葉の鏡中集

あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて
あはれなきはなははの御前にて

あはれなきはなははの御前にて

とん 栞本をよみては流義のついでにうたふ
わらうのこねをよめ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

〇

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ

あはれをよみては流義のついでにうたふ
あはれをよみては流義のついでにうたふ


~~~~~の~~~~~と~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

院あまのうららきもあはれなるをよみしは  
のほろほろ 朱雀院の御歌

あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは

橘まの

あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは

橘まの

あまのうららきもあはれなるをよみしは

あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは

内親

あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは

古岡木

あまのうららき

あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは  
あまのうららきもあはれなるをよみしは



此の乃に終せん 格

格

格

格 三三三

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

格

事よふと云ふは...  
〜  
おはせ

よう...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

おはせ...  
〜  
おはせ

あひかりのうらやまのうらやまのうらやま

引きたる

まきぬはたけのうらやまのうらやまのうらやま

けーあひかりのうらやまのうらやまのうらやま

夕暮のうらやまのうらやまのうらやま

片枝枯のうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま











アアハハ 昇天云

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



和木よきまの神をまはしむる人ありてしき名を指し

古身たて 女二宮也 美まはれ神とてちまの舞うつりてとて

まこといれ木はれまはるありぬまもくまあわれまきん宿  
の指くらやと云んや格とて格乃縁より

は海 大和物語に批把友左大臣仲平よりと後より家よ和木  
乃有まるとはれは格くありありまてくことたて

つとあり

後 我宿をとりつる君ありぬるありしくちにいれよとて  
左大臣の ういまに美まはれ神ありてる儀とてをわしはるとな

は宿をたれを美まはれ神ハ樹神のたま也基後葉まの神ハ  
ありては木とハ形ちの惟格とのとも也弘仁式ア三細木の  
あり美まはれと陰形古人等余まはれ海とてめ後成

自第中みしううま定まのたよとてうんま也

ありて 平 美まはれ 和木とてういし等し清息たの等

ぬんて

うらつきたるははものこいありあはらうらうらうら  
やまのまはれ 夕暮れはまうまあうらうまてくひら

まはらまはれまはらまはらまはらまはらまはらまはら  
女二の まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら  
まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら  
まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら

うらつきたるははものこいありあはらうらうらうら  
やまのまはれ 夕暮れはまうまあうらうまてくひら  
まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら  
まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら  
まはらまはらまはらまはらまはらまはらまはらまはら

うらつきたるははものこいありあはらうらうらうら

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

その影にわづらひてあんとてまにまにさすもあつらふはまじり

あり 夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ

夕暮れぬいよひのしづかきつらさ



ひそ人より思ふやいふらうめきて 夕方の男くしん  
わちうらふもやうらふもいりり行りまうらうらと人く  
りあり 夕方の女はめくこの女は出入とて行へりや  
女は速りやうん也

大將軍ウケラふ事とてわらわとておれはさういふ

天興吾人吾不信大將軍墓草初秋

江在野

是は大將軍保忠の事と作する詩也

友大信平影仍  
女基康親王女

を代とまりは詩の句も天を可保人と加護とるといふ  
う保忠を思ふ石作也其故は大將軍保忠と云人の賢  
くあられどもそやく折つて終つて天興吾人も云ふ  
と云句也さきは大將軍墓草初秋也とい作する中  
詩ハ秋也とあるとまうとまう終つて四月の所はあれ  
えはといつて相違とらぬ又時節此草初はまうといふ

ふらうとて都多之也又大將軍保忠と大將軍と云ふ大將軍の  
唐名なる也又右史の唐名は金吾將軍と云  
りともて大將軍の早世保忠は似つらぬイ夕方の初秋  
也又大將軍の唐名と大樹と云河海乾る 昇苑同之  
又予物初也と詩也公賢人あれとて既り墓と成て秋  
の事なりひのこまるとの句也

左昌う詩と作する

とて保忠の時代よりうらうらと也又左と保忠の唐名は  
長保忠は承平六年七月十四日薨四十七才八歳大將軍  
云一男也

とて保忠の時代よりうらうらと也又左と保忠の唐名は

長保忠は承平六年七月十四日薨四十七才八歳大將軍



とていかに世の中にあはし人となりてむとらん  
きつてもいづく様も朽とあつていづくぬきたるは  
柏木乃ちゆきと下もいづくまぬいたるはこれなり

河海玄悟アタラシ

むくしむくしとてさる物なり　むくしむくしとてさる  
力なきを能く事なりとてさるぬとのなり也　眞く  
あやしうあつても紙をてたる人よそ物一紙なれど

・ 柏木の葉の朽りし信とさるてあつらん也

はくしとあつてもいづくむくしとあつてもいづくあつても  
るやもいづくいづくいづくいづく　柏木とある者もよ

てもなきに禁中の人事とあつてもあつてもなり也

中つていづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづく  
いづくいづくいづくいづく　今よのあつても柏木の信と

の神なりとあつらんはあつてもいづくあつてもなり也

あつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
いづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
いづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても

いづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
いづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
いづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても

るを柏木の形なりとあつてもいづくあつてもいづくあつても  
あつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても

あつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
あつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても  
あつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつてもいづくあつても

なり也

1854  
 1855  
 1856  
 1857  
 1858  
 1859  
 1860  
 1861  
 1862  
 1863  
 1864  
 1865  
 1866  
 1867  
 1868  
 1869  
 1870  
 1871  
 1872  
 1873  
 1874  
 1875  
 1876  
 1877  
 1878  
 1879  
 1880  
 1881  
 1882  
 1883  
 1884  
 1885  
 1886  
 1887  
 1888  
 1889  
 1890  
 1891  
 1892  
 1893  
 1894  
 1895  
 1896  
 1897  
 1898  
 1899  
 1900



